

## 特集：おらほの農地集積】

「農地集積のモデル地区を目指して」～地域の活性化を目指した事業への取り組み～

きたあかい

# 北赤井地区

## 1.地区の概要

事業名	： 県営ほ場整備事業(担い手育成型)	担い手農家戸数	： 21戸2組織
関係市町村	： 矢本町、河南町	担い手経営面積	
関係土地改良区	： 河南矢本土地区改良区	(現在)	： 56.0ha
工期	： H14～H19	(計画)	： 131.8ha
受益面積	： 194.0ha	農地集積増加率(目標)	： 29.3%
総事業費	： 2,660百万円	農地集積率(目標)	： 67.8%



## 2.地区の現状

平成14年度に採択され、平成15年度より面工事に着手予定の当地域は、生活環境整備や集落の将来ビジョンの構築等を積極的に行うなど集落活動が盛んな地域で、平成8年度から6年間「みやぎ快適農業農村づくり支援事業」を行いました。またミニライスセンターや大型ハウス等の建設により「高付加価値」「高生産性」農業の実現を目指すとともに、意欲的な21戸の個別担い手農家と集団転作に取り組む2つの生産組織により、積極的な営農活動が展開されております。

## 3.地区活動の特徴

ここではこれまで当地区において行ってきた3つの取り組みについて紹介いたします。

### 農地集積業務と換地業務の一体的な推進

このことについては、以前より対応が求められていたところですが、なかなか現実的に難しい手法でありました。しかしながら昨今の情勢を見ますと、担い手への農地集積の必要性は高まる一方であり、その推進のためには事業実施中から担い手への利用権設定等を積み重ね、換地処分後の農用地利用に継続させることが求められています。そこで県農地整備課では、農地集積指導専門監が中心となり、構造改善班とほ場整備班が産業振興事務所(農業農村整備部)に指導助言を行い、石巻産業振興事務所農地集積指導専門監をリーダーとして農業農村活性化計画担当、換地担当、農地整備担当で構成する農地集積指導チームにより換地計画や農業農村活性化計画の具体化に向け、市町村・土地改良区へ支援することとなりました。さらに水土里ネットみやぎ(土地連)と農業公社の支援を得て、県・町・土地改良区が一体となった活動を展開しております。現在県内においては2地区(北赤井地区:石巻管内/沢辺地区:築館管内)がモデル地区に選定され活動中です。具体的な活動内容としては「現状と課題の把握」について打合せ会議を行っており、昨年12月には農地集積指導専門監連絡協議会でも取り上げられ指導を受けております。現在は推進のための具体的手法の確立に向けて検討を重ねているところです。



【農地集積指導専門監会議への参加】

### 農地流動化支援水利用調整事業

本事業は河南矢本土地区改良区において平成8年度に採択され、農業水利に係る様々な情報を「地図情報システム」により管理し、関係機関への情報提供並びに収集・連絡調整を行うとともに、地区の農地利用集積状況を勘案した農業用水の利用調整方を策定し農地の流動化を支援しております。現在全域を対象に本事業を実施しており平成15年度には事業用件である農地集積増加率20%増加を達成し完了する見込みとなっております。また本事業により農地の流動化に関する意見が集約されたことにより、集積活動に水利用の観点から支援を行っています。(図-1参照)

### 農地整備環境機能増進事業

本事業は地域リーダーの育成等を行う「地域づくり支援事業」と、地域ぐるみの維持増進活動計画の計画・実践を行う「地域づくり推進事業」からなり、ほ場整備等区画整理を実施する地域において環境機能の維持・増進活動を支援する、最長5ヵ年・国費100%の事業となっております。当地区においては、平成14年度にほ場整備事業が採択されたこと

と、平成8から平成13年度にかけて実施された「みやぎの快適農業農村づくり支援事業(アグリベース型)」の実施によって地域活動が根付いていたことなどから、地域住民の環境に対する意識の高さが認められ採択されました。

事業実施1年目である平成14年度は、推進体制の整備や研修・活動計画の検討などを中心に取り組みました。推進体制については、ほ場整備事業の受益農家をはじめとして、赤井小学校PTAや教諭等で構成する「北赤井地域づくり推進委員会」が設立されました。委員会では実践に向けての準備活動として、県庁担当課から講師を招き事業に関する講話を聞きました。また先進地視察を秋田県雄勝町において行い、ほ場整備地区内に設置された保護池で絶滅危惧種である魚類を保護した活動等への取り組みについて研修を行ったほか、地域住民の協力を得て、景観美化を目指した道路沿いへの花の植栽なども実施しております。



【先進地視察：秋田県雄勝町】



【花の植栽活動】

こうした準備活動を経て、来年度からは実践活動の一つとして、赤井小学校と連携し児童が稲作作業を体験する「田んぼの学校」を計画しています。広く地域住民の理解を得たうえで非農家の子供たちも参加することで、将来の農村環境を維持していくことを目指すとともに、集落間の協調体制を確立することによって農地集積の推進に役立てていきたいと考えております。

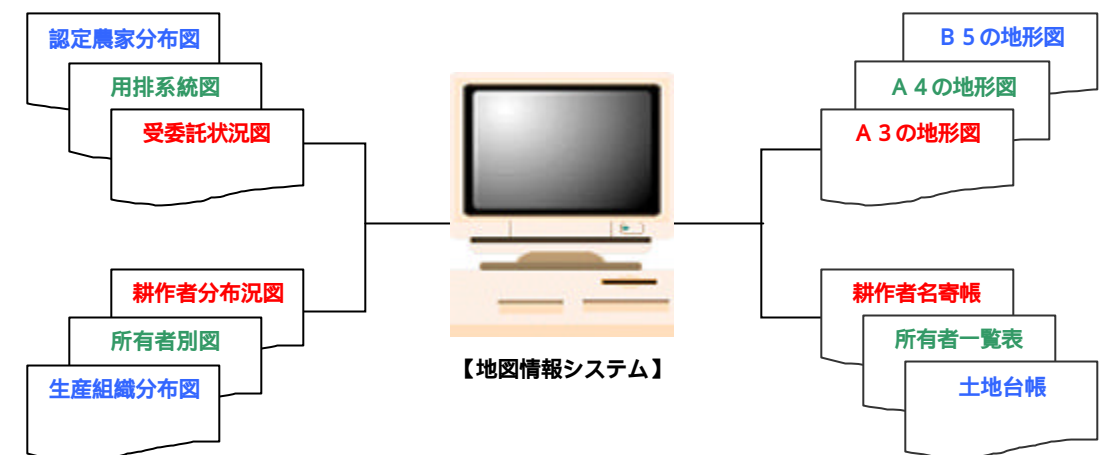
このように当地区においては地域農業者のみならず地域住民の協力を得た地域づくり活動が積極的に進められております。これからの環境に配慮したほ場整備事業においては、地域住民との合意形成が必要不可欠であり、農地集積の観点からも地域づくり活動はさらに重要性を増していくであろうことを念頭に本事業に取り組んでいます。

## 4.今後の課題

平成15年からの面工事着手ということもあり、農地集積についてはこれからの地区ですが、これまでに各種事業に積極的に取り組むなど関係者の事業に対する熱意は高いと感じられます。しかし一方で、地区が2町にまたがっていること、さらに受益者が石巻市の方も多数いる現状を考慮すると、集積活動が容易でないことが予想されます。関係機関・地域のみなさんが一体となり、農地集積のモデル地区となれるよう事業推進に努めていきたいと考えております。

### 【地図情報システムでの連携操作概要】

(図-1)



- 問い合わせ先 -  
〒981-0503 桃生郡矢本町字上河戸 36-1  
矢本町 産業振興課  
TEL:0225-82-1111 FAX:0225-82-1846  
〒987-1102 桃生郡河南町和淵字小金袋三番 22-7  
河南矢本土地区改良区  
TEL:0225-72-3183 FAX:0225-72-3873